旧 芳賀写真館の写真資料サーベイ

小西 伸彦

芳賀写真館と芳賀直次郎

高梁市鍛冶町の旧・芳賀（はが）写真館は、初代・芳賀直次郎（以下、初代）が明治時代に創設したものである。当時岡山で営業を始めた写真館に１週間泊まり込み修行した初代が、高梁に写真技術を持ち帰ったとされている。初代は旧・川上郡の出身で、芳賀写真館は岡山県下で二番目の開業あった。カメラが珍しかった当時、県内各所から撮影の依頼を受け、明治４４（１９１１）年の岡山陸軍大演習では記録撮影の特命がくだされている。初代は大正２（１９１３）年９０歳で物故し、芳賀賢寿が後を継いだ。二代目・芳賀直次郎（以下、直次郎）の時代は、日本における写真の隆盛期にあたり、写真館はかなり繁盛したようである。３６０度撮影できるドイツ製サーキットカメラを使った高梁の映像も残っている。敷地には現在も母屋と蔵が残り、スタジオは母屋２階に設けられている。その北側は終日安定した光が取り込めるよう広いすりガラス面になっている。

直次郎には美術への造詣眼があったようで、与謝野晶子が頼久寺で詠んだ歌の短冊をはじめ、高梁ゆかりの文化人や芸術家などの作品を多数蒐集している。茶道趣味は焼物蒐集にも走らせたらしい。その眼の確かさから、財産税算定のための鑑定を依頼され県下に出張したこともあったという。写真士と美術品蒐集家、ふたつの顔をもっていたようである。晩年は高梁市文化財保護審議委員をつとめている。昭和６０（１９８５）年９４歳で永眠。後継者に恵まれなかった芳賀写真館は営業を停止した。東京に住む一人娘・小原渼子氏は、写真と美術品の整理を、高梁市文化財保護審議委員であり、父と親交の深かった平見郡司氏に相談し、高梁にゆかりの美術品と写真が高梁市に寄贈されることとなった。

芳賀コレクション

昭和５４（１９７９）年、高梁市史編纂のため直次郎が提供した備中松山城の古写真は高梁中央図書館に保管されている。直次郎の没後、小原渼子氏は、平成１０（１９９８）年と１６（２００４）年、３回にわたって、５００点を超える美術品・資料・文書と、２０００余点のガラス乾板・フィルムを高梁市に寄贈している。その平成１６年リストには、昭和５３（１９７８）年の開館以来高梁市郷土資料館に展示されていた、吉田初三郎揮毫『伯備沿線図』も含まれている。

写真資料は、ガラス乾板、サーキットフィルム、銀塩フィルムであり、高梁市歴史美術館に収蔵されている。

写真資料サーベイ

平成１７（２００５）年１２月、これらガラス乾板とフィルム（以下、資料）のクイックサー

ベイを行った。高梁市歴史美術館・加古一朗学芸員立ち会いのもと、株式会社文化財保存・修復部・荒木臣紀主任の協力を得て、高梁市歴史美術館で実施した。対象は平成１０年・１６年に寄贈された２０００余点で、このうちのガラス乾板３７７点、フィルム１９５点、計５７２点を一日で調査した。資料は大半が元箱に入っているが、蔵に裸のまま積み重ねられていたガラス乾板は汚れ、損傷ともかなり酷い状態である。

資料は平成１５（２００３）年、九州保健福祉大学社会福祉学部・山内利秋講師らが中心となってリストを作成している。そのリストと現物下見調査から４種類の早見表をつくりサイズを分類した。早見表に該当しないものは実測した。被写体分類は、人物、記念、風景、その他とした。

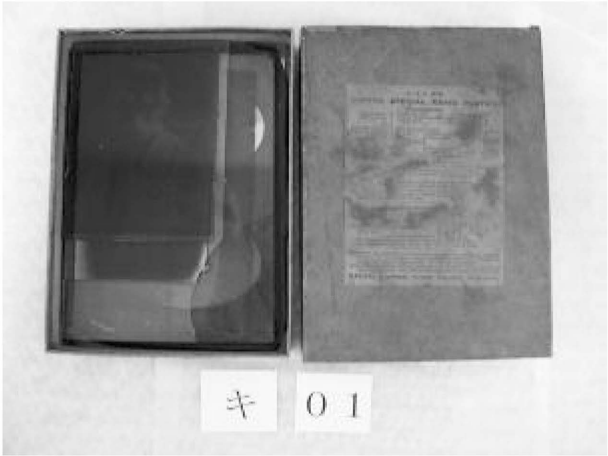
写真館だけあって人物、特に肖像写真と記念写真が多かった。資料の入った紙箱に年代等記入されたものがあったが信憑性は不明である。コンディションは個々に記入した。ガラス乾板、フィルムとも、ほとんどの乳剤面にシルバーミラーリング（銀鏡、銀化）が見られた。特にガラス乾板では、支持体であるガラスの損傷（割れや欠け）が多く、割れた支持体が乳剤面でかろうじて繋がっているものもあった。肖像写真には、乳剤面と反対面、人物の顔部分にレタッチされたものがあった。これは焼付けの際肌の諧調を出すのが目的だったと思われる。支持体に黒い紙を貼りマスキングした乾板も見られた。概してフィルムには傷や黴が多く、ガラス乾板・フィルム双方には埃や手垢（指紋）の付着が見られた。調査後資料は、保護と安全な取出しができるために薄用紙で養生した。サーベイの間はマスクと手袋を着用したが、手袋はすぐに黒く汚れた。

今後のサーベイ、保存・修復、アーカイブ

今回のサーベイはクイック式であり詳細なものではない。しかも四分の一程度を終えたにすぎない。得られたデータは将来の保存・修復、アーカイブへの指針となるため、サーベイの継続を希望する。資料が置かれている部屋は温湿度が一定に保たれているが、ガラス乾板は数箱単位で積み重ねられているため、下にいくほどガラスの重量がかかっている。この点を早急に改善することと、包材が必要である。さらなる歴史証人である写真資料の保存・修復、アーカイブ化を望む。

協力：高梁市歴史美術館、高梁市歴史美術館・学芸員・加古一朗氏、平見郡司氏、
株式会社文化財保存・修復部主任・荒木臣紀氏

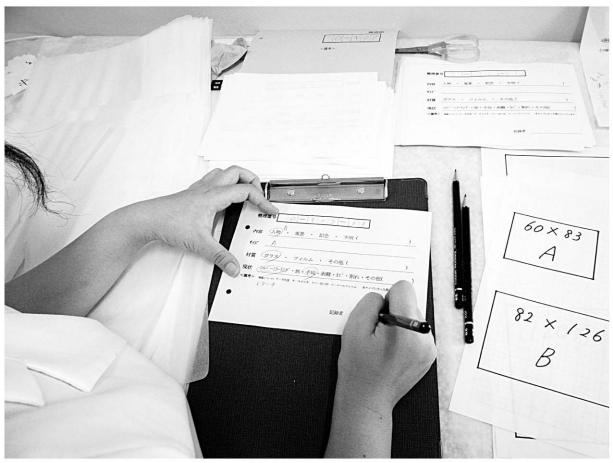
本研究は、一部文部科学省学術フロンティア推進事業（平成 15 年度～平成 19 年度）による私学助成を得て行われた。



1

2

3



4

写真解説

1. 元箱に入った状態のガラス乾板。割れなどの損傷を受けたものもある。箱単位に通し番号がうってあり、それを整理番号に応用した。
2. ガラス乾板の元箱は 211 あり、箱の中にはサイズの異なる乾板が納められている場合もある。箱の大きさは使われたガラス乾板の種類に応じて異なる。
3. フィルムの状態調査の様子。写真館のものだけあって肖像写真が多い。1 枚のフィルムに 2 カット写したポートレイトが多い。左に写っているのはライトボックス。
4. サーベイの調査表。整理番号、内容、サイズ、材質、現状、備考の項目を設けた。右にあるのがサイズ早見表。早見表に当てはまるものはその番号をサイズ欄に記入した。